# 22［随筆］『私の日本語雑記』

　三十年前に私がインドネシアの学会によばれた時、その開会演説は「何とか何とか（聞き取れず）ダン・トアン・トアン」で始まった。トアンが「ジェントルマン」であるのは、すでにトアン・プラス・固有名詞を耳にしていたから、まずまちがいない。複数は重ねるのだと了解して、これは「レディズ・アンド・ジェントルメン」であり、danはandであると思った。すぐに覚えた。スピーチのあちこちで、この力強い接続詞が響いた。次はsayaであった。ａヒンパンに出てくる。何ですかと隣の席の女性にたずねると「サヤ」と言って自分を指した。「私」だと思った。「東洋のイタリア語」というインドネシア語はとにかく雄弁である。日本人に聞き取りやすいこと、英語の比ではない。三日の学会でいくつかの単語と少々の文法らしきものが私の頭にしばらく残った。言語学者の友人に話すと、面白い、子どもって、①そうやって言葉を覚えるのかもしれない、と言った。

　ところが、日本語の講演では、第一印象は何と「あのー」が他をｂアットウして耳に入ってくる。日本語の講演をｃマネしてみせると言って「ぐちゅぐちゅぐちゅ、あのー、ぐちゅぐちゅぐちゅ、あのー、ぐちゅぐちゅぐちゅ、あのー、あのー」と言う。これは読者の方も覚えがあるだろう。「あのー」がないと思ったら、まず原稿の棒読みである。雄弁という感じはまずない。（中略）

　わが国では、どうして「あのー」が活躍するのだろう。わが国でも、たしかに「あのー」の多い人とそうでない人がある。しかし、「あのー」は②普遍的である。あまり堂々とした演説はに聞こえて「浮き上がって」しまうということさえありそうである。少し詰まりながらの語りのほうがよいという美学が英国人にあったというが、③それに通じるものがあるかもしれない。

　通り過ぎる未知の人にたとえば道をきこうと寄ってゆく時も「あのー」が活躍する。「あのー」と言いつつ近づいて、「あのー、失礼ですが、ちょっとよろしいでしょうか」「え、は、はい、どうぞ」「あのー、どこそこに出るにはここをまっすぐ行ってよいと聞いてきたのですが……」。ここで、場面に適切な音調で発せられた「あのー」は、「お急ぎの様子の未知の方にものをおききするのは失礼なので、迷っているのですが、えて、話しかけいたしますけれども……」というだけの含みを伝えている。と同時に、「いや、ちょっと急いでいるので」と断られてもお互いに傷つかない配慮があるということも示している。

　私の例文は「あのー」をｄコチョウしていると思われそうである。しかし、④記憶では「あのー」の多くは消去される。私たちはそのように条件づけられているといってもよい。テープにｅサイロクされた自分の語りを聴くと、私はこの種の言葉遣いの多さに恥じ入ってしまう。しかし、上の会話でも「あのー」を全部削除したら、どうであろうか。「あのー」はためらいであり、はじらいである。そういうものとしてしかるべきものでさえある。

●語注

音調＝アクセント。ここではその場に合った語調。

しかるべきもの＝当然である（はずの）もの。

問１　二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　傍線部①の説明として最も適当なものを次から選べ。8点

ア　違う国の言語を体験し、それを自国の言葉と比較することでを増やしていくということ。

イ　意味を教わったり、自分が持つ単語の知識に応用しながら語彙を増やしていくということ。

ウ　様々な生活上の経験を積みながら、少しずつ言葉の意味を理解していくのだということ。

エ　書き言葉よりもむしろ話し言葉を聞いてこそ、言葉を獲得していけるのだということ。

オ　単語と文法の両方の力があって初めて、言葉が身に付いていくものであるということ。

〔　　　〕

問３　傍線部②の説明として最も適当なものを次から選べ。8点

ア　日本では、使用に多少の差はあっても「あのー」が講演でよく使われる言葉として広く行き渡って通用しているということ。

イ　日本では、「あのー」が講演や演説で使われる、わが国独特の慣用表現であるということをみんなが知っているということ。

ウ　「あのー」や「えー」は、講演や演説以外に人々の日常会話の中にも広がって、今や、誰もが使う言葉になったということ。

エ　「あのー」や「えー」という言葉は、実は英語のandに当たるのだということは、日本では広く知られているということ。

オ　演説や講演で「あのー」という言葉が出てこないとき、それは例外なく必ず原稿の棒読みをしているということ。

〔　　　〕

問４　傍線部③は何を指すのか。本文中の言葉を用いて五字程度で答えよ。6点

〔　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部④の意味として最も適当なものを次から選べ。8点

ア　会話を文字に起こすときは、「あのー」は削除して書かないものであるということ。

イ　人の会話は「あのー」で始まることに、当事者同士は全く気づいていないということ。

ウ　会話において「あのー」を多用しすぎると、話の内容を忘れやすくなるということ。

エ　「あのー」を会話の中でどれだけ強調しても、相手は気にしてくれないということ。

オ　人は普段自分が話す言葉に「あのー」を多く使っていることを意識していないということ。

〔　　　〕

問６　「演説」と「道をきく時」に使う語り手の「あのー」に共通する意識とはどのようなものだと筆者は考えているか。本文中の言葉を用いて、「意識」に続くように二五字以内で説明せよ。10点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕意識

【解答】

問１　ａ頻繁　ｂ圧倒　ｃ真似　ｄ誇張　ｅ採録

問２　イ

問３　ア

問４　英国人の美学（6字）

問５　オ

問６　傲慢に聞こえないようにためらいやはじらいで配慮する（意識）（25字）

　　　（傍線部の内容がなければ、それぞれ5点減点）

■覚えておきたい語句

□2　固有名詞………………特定の物事の名称を表す名詞。地名、人物など。

□6　雄弁……………………人に感銘を与える、力強い弁舌。

□13　活躍……………………めざましく活動すること。

□14　傲慢……………………おごり高ぶり、人を見下すこと。

〔要　約〕

筆者の考えを示した［4］、［5］段落を中心に、「インドネシア語と日本語の比較」の事実を記した［1］、［2］段落から補う。

　　　　↓

インドネシア語と比べて日本語の演説の「あのー」には雄弁という感じはない。しかし、「あのー」は人に道をきく時などにも使うが、ためらいやはじらいでありお互いに傷つかない配慮を示して、あっていいものである。（100字）

〈筆者＆出典〉中井久夫（なかい・ひさお）一九三四年（昭和9）奈良県生まれ。精神医学者。京都大学法学部入学後、医学部医学科に転科し卒業。精神科医として大学医学部教授を歴任。専門分野の著作は多いが、様々な言語に通じた語学力を活かし、外国詩の翻訳やエッセイなどの著作も多い。本文は、言葉を通して心の深淵をみつめてきた精神科医の日本語論『私の日本語雑記』（岩波書店、二〇一〇年）「１間投詞から始める」より。

【読みのセオリー】

★事実と筆者の考えを区別して読む

　随筆は、筆者の考えや心情を述べた文章であり、それを読み取ることが随筆の読解の基本である。

　それには、「事実」と「考え」を区別して読むのがセオリーである。具体的には、文末を意識するのがよい。

　4段落の「伝えている」（21行目）「示している」（22行目）や、5段落の「〜でさえある」（26行目）など、筆者が判断を下しているような表現に注意するのである。

■読みのセオリー［実践］真実と筆者の考えを区別して読む

問６　「演説」と「道をきく時」に使う語り手の「あのー」について、筆者はそれぞれどの段落で自分の考えを述べているか。

演説

［１　　　　］段落

道をきく時

［２　　　　］段落

　これらの考えの根拠となっている、筆者の体験を述べている段落は、

［３　　　　］段落

　こうした区別を意識して読んでいくことが重要である。

〔解答〕　１［3］　２［4］　３［1］・［2］

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問２　傍線部①とはどういうことか、説明せよ。

　［答］　意味を教わったり、自分が持つ単語の知識に応用しながら語彙を増やしていくということ。

　　　　　意味を教わったり、自分が持つ単語の知識に応用しながら新しい言葉を身につけていくということ。

＊新問

問７　7行目「英語の比ではない」とはどういう意味か、具体的に説明せよ。

　［答］　（日本人にとって）英語とは比べものにならないくらい聞き取りやすい、という意味。

＊新問

問８　26行目「そういうものとしてしかるべきもの」とはどういう意味か、具体的に説明せよ。

　［答］　「あのー」はためらいやはじらいを表すものとしてあっていい言葉である、という意味。

　　　　　「あのー」はためらいやはじらいを表すものとして当然の言葉である、という意味。